



すずめぐみだより「あき」

チャリティー第一保育園
令和7年12月発行

3期(9~11月)の目標

- 保育教諭等や他児とのかわりを喜んだり、関心が持てるよう安心できる雰囲気を作る。
- 季候や体調に気を付け、戸外遊びや散歩にでかけ自然に触れる。

運動会会場は初めて行く場所ですが、保育者や玩具など、いつもと同じ環境にすることにより子ども達は安心して控室で過ごすことが出来ました。



うつ伏せでも
遊べるよ！



緑のブロック、
おさえているからね



次は手伝わずに
見守り！見守り！



ジッパーの袋に小豆を入れて ↑↑ 封をした玩具。しかし、袋の上から触ると粒粒の感触や、振るとシャカシャカと軽やかな音。そして振った時の小豆の動きを目で見たり…「触覚、聴覚、視覚」が遊びの中で育まれていきます。



おもちゃは
どこと
つながって
いるのかな



わくわく活動の様子

わくわく活動のテーマ「雨と水・花と葉・鳥・虫・雪」の中から、今回は「雨」→雨水、「葉」→落ち葉、「虫」→秋の虫、「雪」→積もった雪の観察、の保育風景をご紹介します。

園内を散歩していると園庭で遊んでいるひばりさんが「虫を捕まえたよー」と見せに来てくれました。



あっ、虫！！



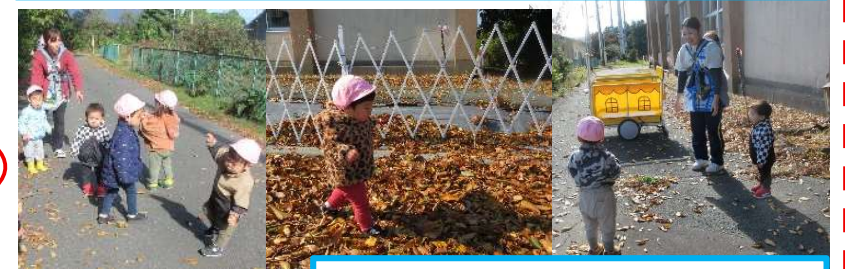
虫、
つかまえたよ

←園庭で遊んでいるはとさんが、お花を摘んで「すずめさんに渡したい」と言い、テラスの窓越しに黄色いお花を渡してくれました。

テラスの軒下にバケツを置いた数日後。雨水がたまりました。戸外遊びをした時にはとさんが「水が溜まっている」ことに気付き、すずめさんも一緒に観察しました。



保育園駐車場の奥に、毎年落ち葉がたまります。雨が降らない日が続くと乾燥し枯れ葉になります。枯れ葉の絨毯の上を歩くとカサカサと音がするのを何度も楽しみました。低月齢のお友だちも保育者におんぶをしてもらい、枯れ葉の音を楽しみました。



初めての積雪を保育室の窓越しに眺めました。保育者が「ゆき」と伝えると「(ゆ)き」と語尾を真似て話していました。目で見えた「雪」と発したことばが「ゆき」がつながり、何度も話していました。



保育者：
窓、冷たいね

(つめ)たい

高月齢児がトンネルを躊躇せずに出入りを楽しんでいました。保育者が「おいでー」と声を掛けると「おいで」と真似をして手招きをしていました。低月齢のお友だちもトンネルをくぐるきっかけとなりました。

おいでー

こっちだよー



9月、10月も気温が高い日が多いのですが、涼しい日には戸外に出て風を感じたり、自ら体を動かそうとする気持ちになれるような環境を整えています。



哺乳瓶
おさえて
あげるね



踏み台を用意するだけで「自分で」水を飲んだり、手洗いをすることが出来るようになりました。



自分で
できるよ

園内散歩をした時に給食の先生との関わりを大切にしています。日中は給食室へ行かないと見る事のない場所だからです。この日はさとみ先生がりんごを差し出すと、触れようと手を伸ばし、興味関心が表れた姿でした。

りんごだよ
触ってみる？



自らのどの渴きを感じ、自ら飲もうとする姿は生きる力の基礎です。まだ口を離して飲むことは難しいので、職員が前後蛇口をすすいでいます。

